

第4章 聖化

□はじめに・・・ 聖化について、次のアウトラインにより学んでいます。

1. 「聖化」の意味

聖化に関連する9つのギリシヤ語が使われている箇所を見ると、「聖化」の基本的意味は、「別に取り分けること」であると、わかります。日本語聖書で「聖化」ではなく、「聖別」とも訳されるのは、そのためです。

2. 「別に取り分けること」の8つのパターン

誰が（何が）、誰を（何を）、別に取り分けるのでしょうか。

聖書では、8つのパターンがあります。

3. 「聖化」はどのようにして起きるのか 5つ

8つのパターンのうち、この学びで対象とするのは、神が信者をこの世とは別に取り分けてくださるパターンです。神学では、これを「聖化」と呼びます。それはどのようにして起きるのでしょうか。まず、信者が自分の清潔さや正しい行いに立たず、イエス・キリストにあるという地位に立つことです。このことをはじめとして、5つのことがポイントとなります。

4. 「聖化」の主体・動因・経路

前の「3.」では、聖化がどのようにして起きるのか、5つのポイントがありました。ここでは、聖化について、あらためて、主体、動因、経路の3つの局面から見ます。

聖化は、①三位一体の神が主体となって起きることです。②神が働かれるとき、それは神の良きみこころから発するものです。③聖化は聖書に記された神のことばを通して行われます。

聖化の主体は三位一体の神、動因は神の良きみこころ、経路は神のことば、です。

5. 「聖化」のタイプ 4つ

聖書は、聖化のタイプが4つあることを教えています。

(1) 人を「信者に導く」ための聖化

(2) その人を神の目から見て、「すでに完全に聖いという地位を与える」聖化。この地位は、信者となった瞬間に与えられます。

(3) 信者の内側を「その地位にふさわしい者へと変えていく」聖化

(4) その人の内側から罪の存在そのものをなくしてしまう、そしてその体にも罪の影響を全く残さない聖化。これは、「最終的聖化、あるいは栄化」と呼ばれます。

第4節 「聖化」の主体・動因・経路

1. 主体は、三位一体の神である

(1) 父なる神

- ① ヨハ 17 : 17 「真理によって、彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは、真理です。」
- ② I コリ 1 : 30 「あなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。」
- ③ I テサ 5 : 23 「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。」
- ④ ヘブ 13 : 20~21 「平和の神が、・・・あなたがたを完全な者としてくださいますように」
- ⑤ I ペテ 1 : 15~16 「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。」
- ⑥ I ペテ 5 : 10 「神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」

(2) 子なる神

- ① エペ 5 : 25~27 「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた・・・キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです」
- ② テト 2 : 11~14 「・・・キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民（直訳「特別な民」=ユダヤ人の信者）を、ご自分のためにきよめるためでした」
- ③ ヘブ 2 : 11 「聖とする方も、聖とされる者たち（=信者たち）も、すべて【元は】ひとつです。」
 - 聖とする方・・・10節の「彼らの救いの創始者」=キリスト
- ④ ヘブ 9 : 14 （直訳）「まして、キリストの血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者とすることでしょう。その血は、キリストが傷のないご自身を、とこしえの霊によって神におささ

げになったのです。」・・死んだ行いとは、モーセの律法に基づいて動物の犠牲を捧げる祭儀。キリストの犠牲により、廃止された（ヘブル 10：9）。

- ⑤ ヘブ 13：12 「ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。」

(3) 聖霊なる神

- ① ロマ 15：16 「・・・異邦人を、聖霊によって聖なるものとされた、神に受け入れられる供え物とするためです。」
- ② II コリ 3：17～18 「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これは、まさに御霊なる主の働きによるのです。」
- ③ II テサ 2：13 「主に愛されている兄弟たち。神は、御霊による聖めと、真理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからです。」
- ④ I ペテ 1：1～2
- 1 節 この差出人と宛先：ペテロから選ばれた者たちへ
 - 2 節 「選ばれた者たち」についての説明（直訳すると）
 - 父なる神の予知に従って
 - 御霊の聖めにおいて
 - 従順へ、そして、イエス・キリストの血の注ぎかけへ
 - 父なる神の予知・・・単に前もって知るのではなく、前もって計画していたので知っていたこと
 - 御霊の聖め・・・御霊によって別に取り分けられること。御霊がそのように働くとき、人の側がそれを受けるのは、信仰を通してである。
 - 従順へ・・・従順^ギフパコエーとは、「注意深く聞くこと」である。そして「聴いた事柄の中から必要とされることを受け取り、それに従う」という意味を持つ。これは、人の行いによる従順ではなく、信仰の従順である（ロマ 1：5、15：18、16：26）。→ 信仰の従順において、信者は、自分の行いによらず、イエス・キリストの血の注ぎかけを受けて、聖なるものとされることを信じ、受け取る。

2. 動因は、神の良きみところである

I テサ 4 : 3 . . . 信者は、神のみみところによって聖化へと動かされる。

3. 経路は、神のことばである

(1) ヨハ 17 : 17 . . . 神は、神のことばをもって、信者を聖化する

(2) エペ 5 : 26 . . . 信者は、神のことばによって洗われ、清められる

聖化は、三位一体の神が主体となって起きることである。

聖化は、神の良きみところから発するものです。

聖化は、聖書に記された神のことばを通して行われます。

聖化の主体は三位一体の神、動因は神の良きみところ、経路は神のことば

□神のみみところとは【 MBS 085 The Image of God in Man 】

1. 神は人をご自身のかたちとして創造された（創 1 : 26~27、5 : 1~2）

2. 神のかたちとは

(1) 神は霊である（ヨハネ 4 : 24）。神は目には見えない（I テモ 1 : 17、6 : 16）。よって、神のかたちも目に見えるものではない。それは、神と似た性質を指している。 . . . 人格的、モラル（倫理的）、孤高ではなく社交的、権威的（創 1 : 28）

(2) 墮落によって、それらの性質はかなりのダメージを受けた。それでも、人は神のかたちを持っている（創 9 : 6、I コリ 11 : 7、ヤコブ 3 : 9）。

(3) 壊れた程度で終わらずに、失ってしまったものがある。それは、「聖さ」である。人は汚れてしまった（ロマ 1 : 24、3 : 23、ヘブル 12 : 14）。

3. 神のかたちと贖いとの関係

(1) ロマ 8 : 29 「御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められた」

(2) II コリ 3 : 18 「主と同じかたちに姿を変えられて行きます」

(3) I コリ 15 : 49 「私たちは、土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです」 . . . 天から出た者のかたち = 御子のかたち

4. 神のみみところは、人を神のかたちに造り、神の栄光の中に浴させることである。聖化は、神のかたちを回復するための神のみわざである。神は、栄光をご自身のものだけにせず、人とシェアしたいと願っておられる。これが神の良きみところである。